

スノーシューイング

スペシャルオリンピックス(SO)のスノーシューイング公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックススノーシューイング競技において適用される。スノーシューイングの運営主体はスペシャルオリンピックス国際本部である。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクション A - 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

1. 25m レース
2. 50m レース
3. 100m レース
4. 200m レース
5. 400m レース
6. 800m レース
7. 1600m レース
8. 5km レース
9. 10km レース
10. 4×100m リレー
11. 4×400m リレー
12. 4×100m ユニファイドスポーツ®リレー
13. 4×400m ユニファイドスポーツ®リレー

セクション B - 設備

1. 周回コースは1周 400m で、競技者1人につき最低 1m の幅を保てるコースとする。
この 400m のコースは比較的平坦であること。トラックの全てが同様の状態となるように、コースは整備されていなくてはならない。競技の方向は左回り（左手内側）で行う。1600m とそれ以上の距離の長距離用コースでは、変化に富んだ地形の周回

コースを提供する。

2. 各種目のコース割当ては以下の通りである：

a. 25m、50m 及び 100m レース

直線もしくは複数の種目で兼用して使用することのできるコースを走る。

25m、50m、100mの種目のためのコースであることが分かるように、マークあるいは線引きされなければならない。これらのレーンは少なくとも走者1人に対して幅1mを保てるものとし、より広いレーン幅の場合は、最大1.7mまでが望ましい。

b. 200m レース

400m コースの一部を走る

c. 400m レース

400m コースの一周を走る

d. 800m レース

400m のコース二周を走る

e. 1600m レース

変化に富んだ地形のコースを走り、400mのコースをスタートとフィニッシュに使ってもよい

f. 5km 及び 10km レース

変化に富んだ地形の山道を走る

g. 4×100m リレー

走者交代ゾーンが3つある、400mコースを走る。走者交代ゾーンは明確に表示された20mの長さを確保し、スタートゾーンはスタートラインに一番近い位置とする。

h. 4×400m リレー

走者交代ゾーンが1つある400mコースを走る。走者交代ゾーンは明確に表示された20mの長さを確保し、スタートゾーンはスタートラインに一番近い位置とする。

セクション C - 用具

1. スノーシューのフレームの長さは 20.32cm×63.5cm(8in×25in)以下であってはならない。この長さはスノーシューの一番長い部分及び一番幅が広い部分の長さとする。この計測は 2 次元で行われる。スノーシューのフレームの計測は、カーブのラインに沿っては行われぬ。スノーシューのフレームは、幅の最小値が 20.32 cm、長さの最小値が 63.5cm 以上でなければならない。この計測は 2 つの垂直な次元内の直線で行う。
2. つま先（アイゼン）とカギ爪のついた既製品は使用してよい。ただし、追加のスパイ

クをつけることは禁止されている。

3. スノーシューはフレームと、ウェビング（丈夫なテープ状の生地）固い板で構成される。
4. 足は、足を直接留めるビンディングシステムでスノーシューに固定しなければならない。
5. 競技用の靴は運動靴やランニングシューズ、ハイキングシューズ、スノーブーツを履いてよい。ただし、これらに限るものではない。全ての競技者は靴を履かなければならない。
6. ストックの使用は任意とする。
7. アスリートは競技会期間中、同一様式のメーカー、種類、サイズの（もしくは対の）スノーシューと、競技ウエアを使用しなければならない。

セクション D - 役員

1. 競技委員

- a. コース責任者
- b. 競技責任者
- c. スタートジャッジ
- d. 副スタートジャッジ
- e. フィニッシュジャッジ
- f. フィールドジャッジ

注記：より大きな競技会では、競技責任者やその他の役員を増員することができる。

2. 役員規定

- a. コース責任者は競技前のコースの規模及び状態の整備について責任を負う。
- b. 競技責任者は競技を監督し、規定どおりの用具が使われているか、競技規定が公式ルールに基づいたものかを確認する。
- c. スタートジャッジは、競技者が位置についたら、スタートの合図をする。スタートジャッジは、スタートがうまくいったか、失敗かを判断する。
- d. 副スタートジャッジは、スタート地点より 10m のところに立ち、スタートの失敗が宣言された場合、アスリートが競技を続けるのを止める。
- e. フィニッシュジャッジは競技者がフィニッシュラインを通過した時点で、タイムの計測及び競技者番号を記録する。
- f. フィールドジャッジはコースに沿って配置され、レースの進行を監督し、セクション E.4.c.セクション E.4.d.に記載されているルールが遵守されているか監視する。

セクション E - 競技ルール

1. 全てのスノーシューは競技前に役員によって計測、及びチェックを受けなくてはならない。
2. 競技者は、競技の間は役員から見えるようにゼッケンを着用すること。
3. スタートについて：
 - a. レースのスタート時、競技者のスノーシューの両足のつま先部分はスタートラインより後方になければならない。そのラインは雪上に色やもしくは何らかのマークで表示されていなければならない。スノーシューを履いている競技者の体や着衣は、スタート前に決してスタートラインやスタートラインより前の雪面に触れていてはならない。
 - b. あらゆる補助やブロック、穴といったスタート時に競技者に有利になるようなものは禁止されている。
 - c. 各ディビジョンの全ての競技者はスタートラインに並んで、同時にスタートしなければならない。時間差スタートは行わない。
 - d. 競技者はスタート合図「Racers ready - Go」(用意 - ゴー)の後、レースを開始しスタート地点を出発する。
 - e. スタートの合図は次の様に行われる：
 - 1) 口頭で「Racers Ready」(用意)(競技者はこの時点でスタートのポジションをとる)
 - 2) 口頭で「Go」(ゴー)もしくはピストルの合図。
 - 3) 付加的に聴覚障害のあるアスリートのために視覚的表示(旗)を使用してもよい
 - f. 競技者のペーシングは禁止されている。ペーシングとは競技者と同じレースに参加していない人が競技者と一緒に、前方、後方または隣で3メートル以上動くこと、あるいは競技者に対して、計時装置の類を使用してレースタイムを助言することを言う。
 - g. 25m、50m、100mのレースでは、競技者はスタートからゴールまで割り当てられたレーンを保たなければいけない。但し、競技者が有利になる、または不当な追い越しをする、あるいは他の選手を妨害することが無い限り、競技者が自分のレーンをそれでも失格にはならない。
 - h. 押しのけたり妨害したりして、他のアスリートの前進を妨げたいかなる競技者も失格になる。その行為は意図的で、偶発性を越えたものと判断される。ジャッジは、失格のアスリートを除いてレースを再開する権限を持つ。
また、失格があったかどうかに関わらず、例外的な環境において、ジャッジが正しく道理にかなったものであるとみなした場合、ジャッジはレースを再開する権限を持つ。

- i. いかなる競技者においても合図より前にスタートした場合はフライングとなる。フライングは競技者がスタートの合図の前にとる静止した体勢から「Racers ready」合図の後や、スタートの合図の前に明らかに体の一部を動かした場合をいう。ジャッジは、フライングしたアスリートを特定し、通知しなければならない。同じレースで2回フライングをした競技者は失格となる。

4. レースについて：

- a. 競技役員、レース参加のアスリートのみがコースへの立ち入りを認められる。
- b. 曲線のコースを使用する場合は、コース責任者はセパレートコースのスタートもしくはそのコースの形に合ったスタートの方法を行うことにより、全てのアスリートが同じ距離を走るということを確認しなければならない。
- c. 競技中、競技者が転んだり、スノーシューや金具の再装着に手間取ったり、コースを外れたりした場合は2分間の修正時間が与えられる。100m かそれ以上のいかなるレースでも競技者は、2分毎に少なくとも20m フィニッシュに向かい前進しなければならない。この2分の制限を遵守できなかったり、何らかの補助を受けたりした競技者は失格とする。一番近くにいるフィールドジャッジは、1分経過の警告及び違反のタイミングを知らせる責任がある。
- d. 競技者（2分間ルールに該当する）又はコース内の他の競技者たちの安全がおびやかされないかぎり、ジャッジ員は介入する前に、その競技者に2分間のコース内に戻る猶予を与えなければいけない。
- e. 競技者はスノーシューを両足につけていない状態で3m以上進んではならない。

5. フィニッシュ：

- a. 競技者は、胴体がフィニッシュラインの垂直面に到着した時点で、フィニッシュとする。胴体とは頭、首、腕、脚、手、足先から区別される。
- b. 公式には、競技者はフィニッシュラインを越えるときに、両足にスノーシューを履いていなければならない。

6. リレー競技：

- a. 指定された交代ゾーンは20mの長さで、20m離れたトラックの垂直面にある2本のライン内からとする。それらのゾーンは進行方向のスタートラインに最も近いゾーンラインの端から始まり、もう一方の端で終わる。
- b. 正しい走者交代（タグ/タッチ）とは、前の競技者が、次の競技者の身体のどこか一部に手で触れることである。着衣によって手、体が覆われている場合も、手や身体の一部とみなす。スノーシューは身体の一部とはみなされない。
- c. タグ/タッチは指定されたゾーン内で行わなければならない。アスリートの体はタ

グ/タッチの際、ゾーンの外にあることも起こりうる。タグ・タッチが交代ゾーンの外で行われた場合は、失格となる。

- d. アスリートはタッチ/タグを受ける前、またはタッチ/タグの後は他のアスリートの障害物とならないようにレーンまたはゾーン内にいなければならない。もしアスリートが故意に適所を外れて、またはレーン外で走ることで他のチームメンバーを邪魔した場合、そのチームは失格となる。
- e. リレーの2番目、3番目、4番目のメンバーはジャッジの指示のもと待機場所に各チームが構成しているリレーと同じ順番（内側から外側にかけて）で並ぶ。
- f. ユニファイドスポーツ®リレーチームは、2人のスペシャルオリンピックスアスリートと2人のユニファイドスポーツ®パートナーで構成される。リレーの走者の順序はコーチの決定による。
- g. リレーチームは4人の競技者から成り、4人より少ないチームは参加資格が無い。
- h. 各競技者はリレーの総距離の4分の1を走らなければならない。いかなる競技者もリレーの2区間以上走ってはならない。

7.失格：

- a. 競技者、もしくはリレーの選手は下記の場合、失格となる
 - 1) 他の選手の不当な追い越しあるいは妨害、または他のいかなる方法で他の選手を故意に邪魔すること
 - 2) 他の選手の通過妨害
 - 3) 決められたコースより離れる
 - 4) スタートで2度の失敗
 - 5) リレー交代ゾーンで不当な中継
 - 6) 2分の制限時間内に競技が再開できない
 - 7) スノーシューを両足につけずに3m以上進む
 - 8) スノーシューを両足につけずにフィニッシュラインを越える
 - 9) 競技者がレースを開始するためにスタートラインを越えた後、もしくはフィニッシュラインを越えるまでの間に身体的補助を受ける
 - 10) 不適切な（承認されていない）スノーシューの使用

8. 抗議手順：

- a. 全ての抗議は文書で行われなければならない
- b. 役員の判断に対する抗議は受け付けられないものとする。

<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。

スノーシューイング